

淡河の名瀑と紅葉の石峯寺を歩く

●木田育義（生環16期・東大池在住）

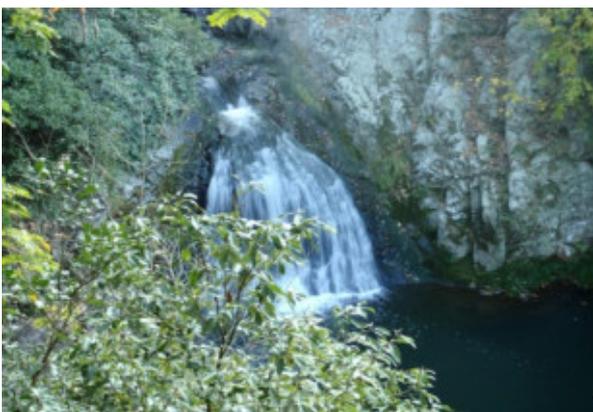
私たちの住んでいる北区は、神戸の中心部三宮から電車で僅か20分程度のところにあるにもかかわらず、自然が豊かで、古くから、都に通じる交通の要所で、人々が往来し、都の文化の影響を受けた、歴史的に貴重な史跡や文化財が数多く残っています。

「北区の歴史の道を歩く」は、自身の健康・体力づくりと、会員相互の親睦を図り、豊かな自然に恵まれた郷土の歴史を辿りながら、「北区の魅力を再発見」するウォーキングです。第7回目は、令和元年11月25日に「淡河町の名瀑（曇り滝）と北区の紅葉の名所、古刹（石峯寺）を訪ねる」を企画しました。

石峯寺は飛鳥時代前期、白(はく)雉(ち)2年(651年)に孝徳天皇の勅願により、伝説の修行者“法道仙人”が開基したと伝えられ、鎌倉時代には、東西2里、南北1里の広大な敷地に72もの堂塔や僧坊が立ち並び、大変栄えていました。しかし、嘉吉(かきつ)元年(1441年)に守護大名赤松満祐(みつすけ)が、室町幕府第六代将軍足利義教(よしのり)を暗殺した「嘉吉の乱」後、山名家を中心とする幕府軍によって攻められ、兵火で全山のほとんどを焼失してしまいました。さらに織田信長・羽柴秀吉による三木城攻めなどで衰退しましたが、江戸時代に入り、徳川家光公より十三代に亘り70石の御朱印寺領を受け、諸堂を建立し、参拝者で賑わったと伝えられています。

今回のコースは、道場南口から神姫バス三木営業所行きの便で上野丘学園口前まで行き、川沿いの道を遡ると「淡河町の名瀑」十数メートルの落差の「曇り滝」が河の向こう岸に見えてきます。

滝を過ぎて、のどかな田園の中の石峯寺への参拝



道を30分ほど歩くと山門にて、それをくぐると、真直ぐに参道がのび、境内には、鼓楼・鐘楼・地藏菩薩が祀られている本堂と、天平19年(747年)聖武天皇の勅願で建立された薬師堂があり、そこに、安置されている「薬師如来」は、行基が開眼したと伝えられています。その裏手に弘仁14年(823年)嵯峨天皇の勅願による、朱塗りの三重塔が建てられています。新緑の頃も美しいのですが、真っ赤に色付いた楓越しに見る塔は、その重厚で堂々たる姿で、訪れた人を魅了します。

今回の企画あたって、三度の下見、図書館での郷土の歴史の調査、特に寺の住職にお願いし、春の祭典の日以外は御開帳されない、御本尊「薬師如来座像」と脇侍の「日光・月光菩薩」を特別に拝観させていただけることになっていただけに大変残念でした。【写真】㊦=曇り滝 ㊧=朱塗りの三重塔

●**お詫** 秋のハイクは10月25日に実施予定でしたが、天候悪化が予想されたため中止としました。世話役の木田育義さんが、事前にコースを踏査されていたので、その際のレポートを掲載しました。